

# 宮 崎 県 感 染 症 週 報

宮崎県健康増進課感染症対策室・宮崎県衛生環境研究所

## 宮崎県第12週の発生動向

### □ 全数報告の感染症（12週までに新たに届出のあったもの）

1類感染症：報告なし。2類感染症：結核3例。3類感染症：報告なし。4類感染症：レジオネラ症1例。5類感染症：アメーバ赤痢1例、侵襲性肺炎球菌感染症1例、梅毒1例、百日咳7例。

	疾患名	報告保健所	年齢群	性別	病型・類型	症状等
2類	結核	宮崎市	40歳代	男	肺結核	咳、痰、発熱
		日向	20歳代	女	無症状病原体保有者	—
			50歳代	男	無症状病原体保有者	—
4類	レジオネラ症	宮崎市	70歳代	男	肺炎型	発熱、意識障害
5類	アメーバ赤痢	延岡	40歳代	女	腸管アメーバ症	下痢、しぶり腹、腹痛、発熱
	侵襲性肺炎球菌感染症	宮崎市	60歳代	男	—	発熱
	梅毒	宮崎市	30歳代	女	早期顕症梅毒(Ⅱ期)	梅毒性バラ疹、丘疹性梅毒疹
	百日咳	宮崎市	0~4歳	男	—	持続する咳、夜間の咳き込み、ウーブ、嘔吐、白血球数増多
		都城	10歳代	女	—	持続する咳、夜間の咳き込み
			10歳代	男	—	持続する咳
		日南	5~9歳	女	—	持続する咳
10歳代			男	—	持続する咳、夜間の咳き込み	
高鍋	5~9歳	男	—	持続する咳		
	10歳代	男	—	持続する咳		

### □ 定点把握の対象となる5類感染症

・定点医療機関からの報告総数は827人(定点当たり21.0)で、前週比94%と減少した。なお、前週に比べ増加した疾患は水痘で、減少した主な疾患は咽頭結膜熱と感染性胃腸炎である。

#### ★インフルエンザ・小児科定点からの報告★

##### 【A群溶血性レンサ球菌咽頭炎】

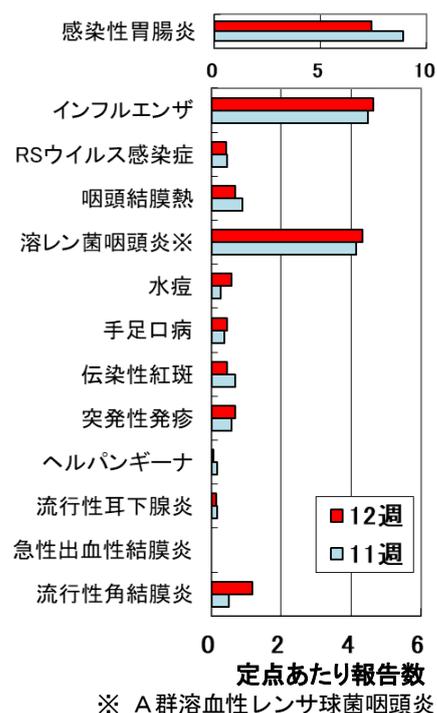
報告数は156人(4.3)で、前週比105%と増加しており、例年同時期の定点当たり平均値\*(1.9)の約2.2倍である。高鍋(7.8)、延岡(7.3)保健所からの報告が多く、年齢群別では3~6歳が全体の約5割を占めている。

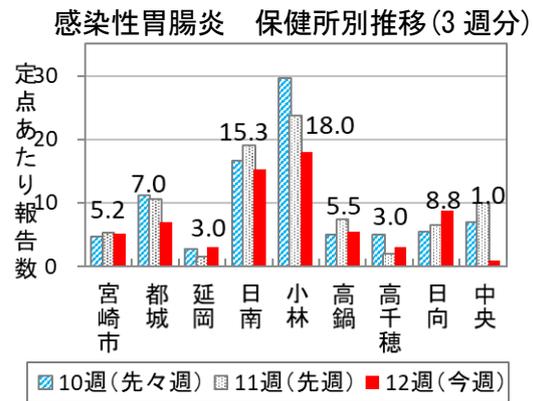
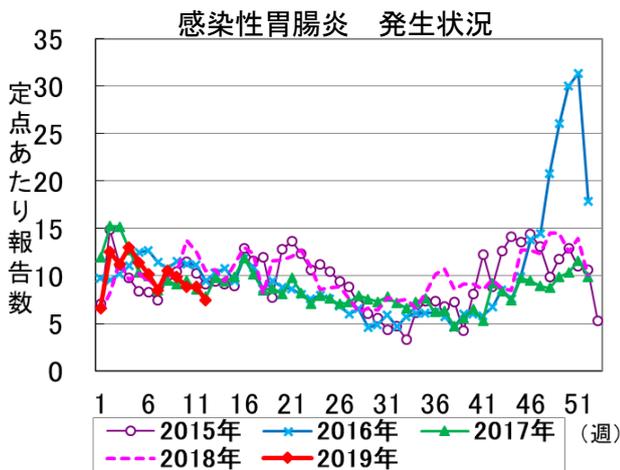
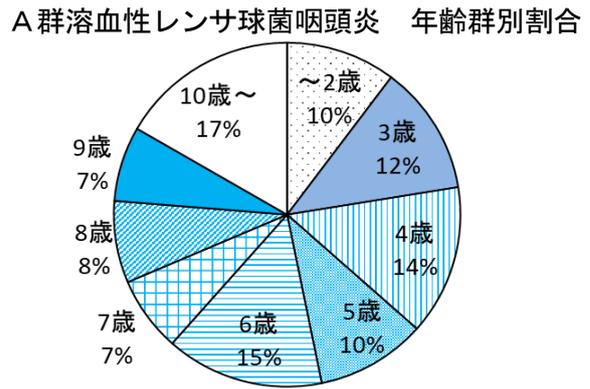
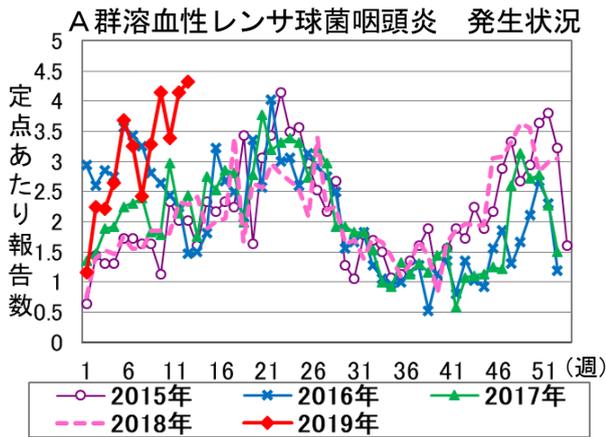
##### 【感染性胃腸炎】

報告数は267人(7.4)で、前週比83%と減少しており、例年同時期の定点当たり平均値\*(10.7)の約0.7倍である。小林(18.0)、日南(15.3)保健所からの報告が多く、年齢群別では1~2歳が全体の約3割を占めている。

\* 過去5年間の当該週、前週、後週(計15週)の平均

《前週との比較》





★基幹定点からの報告★  
報告なし。

★保健所別 流行警報・注意報レベル基準値超過疾患★

保健所名	流行警報・注意報レベル基準値超過疾患
宮崎市	なし
都城	なし
延岡	インフルエンザ(15.9)
日南	なし
小林	なし
高鍋	なし
高千穂	なし
日向	なし
中央	水痘(8.0)

\*流行警報レベル開始基準値\*  
・水痘(2.0)

\*流行注意報レベル基準値\*  
・インフルエンザ(10.0)

## □病原体検出情報 (衛生環境研究所微生物部 平成31年3月25日までに検出)

★細菌

同定細菌名	年齢	性別	採取年月日	臨床症状等	検出材料	分離・検出日
EPEC(O157:H51)	10歳代	男	2019.03.06	細菌性腸炎、発熱(38.3℃)、胃腸炎、水様性下痢、血便、腹痛	便	2019.03.13
<i>Bordetella pertussis</i> (百日咳菌)	10歳代	男	2019.03.11	百日咳疑い、発熱(38℃)、上気道炎	咽頭ぬぐい液	2019.03.15
<i>Bordetella pertussis</i> (百日咳菌)	0～4歳	男	2019.03.08	急性気管支炎、発熱(37.8℃)	咽頭ぬぐい液	2019.03.15

○10代前半の男児から、腸管病原性大腸菌（EPEC）0157:H51が分離された。0157は腸管出血性大腸菌（EHEC）で多くみられる血清型である。また、水様性下痢、血便、腹痛を呈していたことから、血清型や臨床症状からはEHECとの鑑別が難しい。EHECは感染症法で三類感染症となっており、医師の届出やその後の対応が他の下痢原性大腸菌と異なるため、VT産生性ないしVT遺伝子の確認が重要となる。

### ★ウイルス

同定ウイルス名	年齢	性別	採取年月日	臨床症状等	検出材料	分離・検出日
クラミジア サイトメガロウイルス	0～4歳	男	2019.03.11	気管支炎、誤嚥性肺炎疑い、咳嗽、SpO2低下、 下気道炎（肺炎、気管支炎）	咽頭ぬぐい液	2019.03.22
ヒトヘルペスウイルス6	0～4歳	男	2019.02.21	脳症疑い、40.0℃、熱性けいれん、上気炎、 意識障害	咽頭ぬぐい液	2019.03.22

○乳幼児1名からクラミジアが検出された。クラミジア科はクラミジア属とクラミドフィラ属に分類される。トラコーマ・クラミジアはクラミジア属に、肺炎クラミジア、オウム病クラミジアはクラミドフィラ属に分類される。当所ではクラミジア科までの検出のみ可能である。トラコーマ・クラミジアは母親から産道感染し、生後3ヶ月の間に肺炎を起こすことが知られている。

○また、同じ乳幼児からサイトメガロウイルス（CMV）が検出された。CMVは通常、乳幼児期に不顕性感染し、潜伏感染後、免疫抑制時に再活性化する。しかし、国立感染症研究所の報告によると近年、若年層の抗CMV抗体保有率の低下が指摘されており、妊婦のCMV初感染による先天性CMV感染症の増加が懸念されている。未感染妊婦にとって周囲の乳幼児が重要な感染源となるため、乳幼児と接触があった場合には手洗いを徹底することが重要である。

## 🇯🇵 全国 2019 年第 11 週の発生動向

### □ 全数報告の感染症（全国第11週）

1類感染症	報告なし				
2類感染症	結核	330例			
3類感染症	細菌性赤痢	7例	腸管出血性大腸菌感染症	12例	腸チフス 1例
4類感染症	E型肝炎	10例	A型肝炎	5例	エキノкокクス症 1例
	デング熱	4例	ボツリヌス症	1例	レジオネラ症 25例
5類感染症	アメーバ赤痢	13例	ウイルス性肝炎	8例	カルバペネム耐性腸内細菌感染症 15例
	急性弛緩性麻痺	1例	急性脳炎	4例	クリプトスポリジウム症 2例
	クロイツフェルト・ヤコブ病	2例	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	13例	後天性免疫不全症候群 15例
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	9例	侵襲性髄膜炎菌感染症	2例	侵襲性肺炎球菌感染症 45例
	水痘（入院例）	4例	梅毒	92例	播種性クリプトкокクス症 1例
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	1例	百日咳	267例	風しん 74例
	麻しん	14例	薬剤耐性アシネトバクター感染症	3例	

### □ 定点把握の対象となる5類感染症

定点医療機関当たりの患者報告総数は前週比 95%とほぼ横ばいであった。なお、前週と比較して増加した主な疾患は咽頭結膜熱と手足口病及び伝染性紅斑で、減少した主な疾患はインフルエンザである。

RSウイルス感染症の報告数は1,558人(0.49)で前週比107%と増加しており、例年同時期の定点当たり平均値\*(0.30)の約1.6倍である。徳島県(2.1)、和歌山県・山口県(各1.5)からの報告が多く、年齢群別では2歳以下が全体の約9割を占めている。

咽頭結膜熱の報告数は1,176人(0.37)で前週比116%と増加しており、例年同時期の定点当たり平均値\*(0.31)の約1.2倍である。鹿児島県(1.3)、長崎県・富山県・福井県(各1.0)からの報告が多く、年齢群別では1～4歳が全体の約7割を占めている。

伝染性紅斑の報告数は1,836人(0.58)で前週比107%と増加しており、例年同時期の定点当たり平均値\*(0.20)の約2.9倍である。山形県(1.5)、新潟県・宮城県(各1.4)からの報告が多く、年齢群別では3～6歳が全体の約6割を占めている

\* 過去5年間の当該週、前週、後週（計15週）の平均

宮崎県 感染症情報

(72定点医療機関)

2019年 第12週(03月18日～03月24日)

疾病名		第11週	第12週	宮崎市	都城	延岡	日南	小林	高鍋	高千穂	日向	中央
インフルエンザ	報告数	264	274	80	19	111	7	6	9	1	33	8
	定点あたり	4.47	4.64	5.00	1.90	15.86	1.40	1.20	1.50	0.50	5.50	4.00
RSウイルス 感染症	報告数	16	15	10	2				1		2	
	定点あたり	0.44	0.42	1.00	0.33	0.00	0.00	0.00	0.25	0.00	0.50	0.00
咽頭結膜熱	報告数	32	24	7	6	3	2		1		5	
	定点あたり	0.89	0.67	0.70	1.00	0.75	0.67	0.00	0.25	0.00	1.25	0.00
A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	報告数	149	156	53	14	29	7	2	31	1	17	2
	定点あたり	4.14	4.33	5.30	2.33	7.25	2.33	0.67	7.75	1.00	4.25	2.00
感染性胃腸炎	報告数	320	267	52	42	12	46	54	22	3	35	1
	定点あたり	8.89	7.42	5.20	7.00	3.00	15.33	18.00	5.50	3.00	8.75	1.00
水痘	報告数	10	21	6		2	1		1		3	8
	定点あたり	0.28	0.58	0.60	0.00	0.50	0.33	0.00	0.25	0.00	0.75	8.00
手足口病	報告数	13	16		16							
	定点あたり	0.36	0.44	0.00	2.67	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
伝染性紅斑	報告数	24	16	8		3	3	1	1			
	定点あたり	0.67	0.44	0.80	0.00	0.75	1.00	0.33	0.25	0.00	0.00	0.00
突発性発しん	報告数	21	24	5	7	2	1	2	3		4	
	定点あたり	0.58	0.67	0.50	1.17	0.50	0.33	0.67	0.75	0.00	1.00	0.00
ヘルパンギーナ	報告数	6	2	1		1						
	定点あたり	0.17	0.06	0.10	0.00	0.25	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
流行性耳下腺炎	報告数	6	5	2	1			1			1	
	定点あたり	0.17	0.14	0.20	0.17	0.00	0.00	0.33	0.00	0.00	0.25	0.00
急性出血性結膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00						
流行性角結膜炎	報告数	3	7	4	1	2						
	定点あたり	0.50	1.17	1.33	0.50	2.00						
細菌性髄膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
無菌性髄膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
マイコプラズマ 肺炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
クラミジア肺炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	報告数	6										
	定点あたり	0.86	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	

インフルエンザ定点:59、小児科定点:36(インフルエンザ定点を兼ねる)、眼科定点:6、基幹定点:7

上段:報告数  
下段:定点あたり報告数

●全数把握対象疾患累積報告数(2019年第1週～12週)

2類感染症	結核	36例(3)				
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	1例				
4類感染症	重症熱性血小板減少症候群	1例	チクングニア熱	1例	つつが虫病	3例
	レジオネラ症	1例(1)				
5類感染症	アメーバ赤痢	2例(1)	ウイルス性肝炎	1例	カルバペネム耐性腸内細菌感染症	2例
	クリプトスポリジウム症	1例	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	3例	侵襲性肺炎球菌感染症	6例(1)
	梅毒	2例(1)	破傷風	1例	百日咳	69例(7)

( )内は今週届出分、再掲